

「農業農村工学会誌」原稿執筆の手引き (兼原稿作成用テンプレート ver.5)

Instructions-to-the-Authors cum Template for Electric Version of the Manuscripts

農業耕作*
(NOGYO Kosaku)

農村守**
(NOSON Mamoru)

工学華*
(KOGAKU Hana)

I. はじめに

学会誌企画・編集委員会は、本学会誌ができるだけ多くの会員に読まれ、親しまれるように心がけています。原稿執筆に当たっては、農業農村工学会誌投稿要5項(以下、「投稿要項」という)によるほか、この原稿執筆の手引き(以下、「手引き」という)に従ってください。原稿の体裁、記号の使い方、式の書き方、図表の作成方法などの取決めは、編集事務を簡素化して、掲載を速やかにするために必要です。このため、執筆前にこの手引きをよくご理解ください。

なお、原稿作成用テンプレートは、報文(公募および自主投稿)・レポート・技術レポート・行政の窓・講座に適用します。

II. 投稿原稿の内容・長さなど

15 1. 原稿の内容

原稿の内容は、下記のもののほか、投稿要項に則ったものとします。

(1) 報文・レポート・技術レポート 農業農村工学の学術ならびに技術の向上に資するもので、会員20の多数を占める技術者にとってとくに有益とみなされるもの。

(2) コミュニティ・サロン 広く農業農村工学に関連して会員の参考になるとみなされるもの。

2. 原稿の長さ

25 1 編の長さは、原則として投稿要項の「学会誌の掲載区分」の規定ページ以内に限り、報文・レポートは4ページを規定とし、6ページを限度とします。4ページを超過する原稿は、原則として原稿の一部削除を求めますが、削除できない場合、超過ページ分は30著者負担(11,000円/1ページ(消費税10%含む)、2ページまで)とします。技術レポートは2ページ厳守とし、超過は認めません。

なお、規定ページとは、表題・本文・図・表・式・写真・引用文献(または、参考文献)などを含めた刷

35り上がりページ数を指します。

3. 重複投稿

同一著者が、ほぼ同じ内容をすでに他誌に発表(投稿中も含む)している場合は、その旨を本文の最初に明記してください。明記がない場合、重複投稿として40掲載を見送ります。

III. 原稿の書き方に関する注意

1. 原稿執筆に当たっての留意事項

原稿執筆に当たっては、以下の事項に留意してください。

45 原稿作成用テンプレートは、1行24文字、1ページ47行の2段組みに設定しています。

投稿原稿は和文に限ります(図表中の文字を含む)。外国の地名などもカナ表記にします。

50 表題は、原稿の内容を正しく表現できるように27文字以内で簡潔に付けることとし、副題は付けません(ただし、依頼原稿はその限りではありません)。また、「...について」などの表現を避け、英文表題は不必要な冠詞を省略します。

原稿執筆に際しては、章・節・項の見出しを下記のようにします。各見出しに副題を付けることは避けてください。

章： (2行どり)

節： 1. 2. 3. . . . (1行どり)

項： (1) (2) (3) . . . (全角1字をあけて文章を続ける)

仮名づかいは、現代仮名づかいとします。

句読点は「、」と「。」を使用します。数字は、アラビア数字を用いて、3桁ごとにカンマを入れます。

65 術語および単位は、農業農村工学標準用語事典を原則とします。ただし、慣用術語と従来単位は尊重します。

数式などの変数記号にはイタリック体フォントを使用し、下付きと上付き、単位などの区別を

* 第一著者所属(所属は原則、現職名とする)

** 第二著者所属

キーワード 農業農村工学会、報文、原稿執筆、投稿票、
内容紹介、テンプレート

明確にします。

数表とそれをグラフにしたものとの併載は避け、どちらか一方にします。また、写真の使用は必要最小限にとどめます。

5 地名、人名、そのほかで特別の読み方をするものにはふりがなを付けます。

本文で用語を独自に定義づけする場合、以下のとおりに記載します。

テンプレート（以下、「テンプレ」という）

10 注書きは脚注とし、本文の該当箇所右上に注¹⁾、注²⁾…のように注記符号を付し、各ページ最下段に簡素・明瞭な文章（7ポイント）で記します。

テンプレートの基本スタイルは以下のとおりです。

15 和文表題 MSゴシック 16pt

英文表題 Arial Italic 11pt

和文著者名 MSゴシック 11pt

英文著者名 Arial Italic 8pt

章見出し MSゴシック 11pt

20 節見出し MSゴシック 10pt

項見出し MSゴシック 10pt

本文（日本語）MS明朝 10pt

本文（英数字）Times Roman 10pt

図・表・写真番号 MSゴシック 8pt

25 図・表・写真標題 MS明朝 8pt

謝辞本文 MS明朝 8pt

引用文献 MSゴシック 8pt

引用文献リスト MS明朝 8pt

2. 図・表・写真（白黒印刷）

30 図・表・写真には、図-1、表-1、写真-1のように一連の番号と簡潔な標題を付けます。また、本文中に参照先として必ず明記し、言及してください。番号・標題は、図・写真は下、表は上に配置し、8ポイントで記載します。

35 図・表・写真中の文字は明朝体、文字サイズは7ポイントを基本とします。最終的にゲラ刷りにする際に事務局で文字を調整します。

図・表・写真は、著者において白黒で十分に判読できる状態にし、横幅を1段（80mm）以下に調整した
40 上で、それらを最初に引用する文章より後ろに本文との間に1行のスペースを設けて置くことを原則とします（ただし、事務局で印刷用原稿に編集する場合は、これに限りません）。図・表の途中で改行、次ページに追い出すことにならないように配置します。入りき
45 らない場合、次ページに追い出すことはかまいませんが、本文末尾にまとめることは不可とします。図・表・写真の横幅が1段を超えるものは、各ページの上

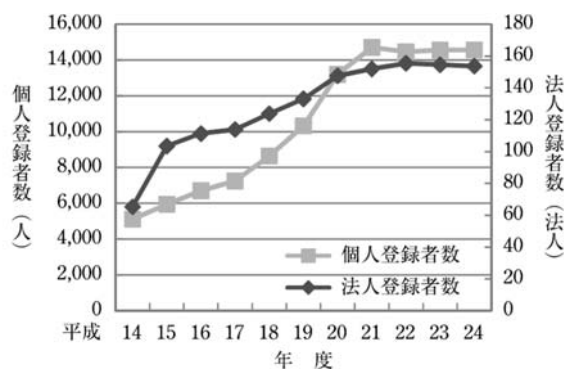


図-1 図の見本（CPD個人・法人登録者数の推移より）

表-1 テンプレートファイルの基本仕様

種別	書体・サイズ	Word用定義スタイル名
段幅	80mm	-
上下マージン	25mm	-
左右マージン	20mm	-
和文表題	MSゴシック/16pt	日本語タイトル
英文表題	Arial Italic/11pt	英語タイトル
和文著者名	MSゴシック/11pt	日本語
英文著者名	Arial Italic/8pt	英語（姓 名）
章	MSゴシック/11pt	見出し1.章
節	MSゴシック/10pt	見出し2.節
項	MSゴシック/10pt	見出し3.項
謝辞	MSゴシック/8pt MS明朝/8pt	謝辞タイトル 謝辞本文
文末文献一覧	MSゴシック/8pt MS明朝/8pt Times Roman/8pt	文献タイトル 文献リスト
本文（日本語）	MS明朝/10pt	本文（標準）
本文（英数字）	Times Roman/10pt	
本文行間	固定値/15pt	

端か下端の中央に配置します。なお、図・表・写真の幅が1段以下の場合でも、それらの横の空白部分に本文を配置しないでください。表の縦罫線は必ず入れませんが両端には入れず、横罫線は最低限必要な線のみとします（表-1）。また、図・写真は全体を罫線で囲まないでください。

図は、白黒で描画し、本文中で解像度が300dpi程度となるよう調整し、貼り付けます。地図を使用する場合は、なるべく方位、縮尺を明示します。

写真は、ドキュメントサイズの幅を80mm以下、解像度を300dpi程度に設定します。カラー写真は、イメージモードをグレースケール（白黒モード）に変換してください。

本文に貼り込む際に、図や写真の解像度を低くしている場合、鮮明な画像とするため、図・写真は高画質

データ (JPEG, BMP, TIFF 形式) も別ファイルで添付してください。また、図・写真に文字を重ねて表示している場合、加工前の図・写真も添付してください。

5 図・表・写真の出典は著作権法に則り、明記してください。著者作成・撮影の場合は必ずしもこれに該当しません。ただし、写真の被写体の肖像権や権利関係については十分注意してください(.参照)。なお、出版(発表)済みの図・表・写真を転載する場合は、
10 出典を明記するとともに原著者の承諾を得てください。図・表を一部修正、加筆した場合はそれがわかるように明示してください。無料提供されている地図を使用する場合は、提供元の規定に従ってください。

3. 謝辞・引用文献

15 謝辞は、テンプレートに従い、本文の末尾、引用文献の前に1行の行間スペースを設けて8ポイントで記載します(4ページ目参照)。

引用文献の記載は、本文中に引用したもののみにとどめ、会員、読者が文献に当たれるように配慮してください。本文中の該当箇所にその出現順に^{1), 2), …}のように上付き文字で文献番号をふり、文末にその順番に並べて記載します。文献一覧では、文献番号、著者名、論文名、掲載誌・巻号、ページ(複数ページにわたる場合は pp.## ~ ##, 単ページの場合は p.##), 発行
20 年の順に記載します。なお、複数著者の場合、その多寡にかかわらず省略は不可とします。また、全体の総ページ数##p. は記載不要です。

Web サイトまたは Web サイトにある PDF の場合は、著者名あるいは組織名、Web ページの題名、
30 URL, 参照日付を記載します。参照日付は原則として受理日以前です。

投稿中・審査中の文献は引用できません。

4. テンプレート使用における注意事項

テンプレートを使用して作成した原稿は、基本的に
35 は原稿どおりに印刷されますが、学会誌の体裁に合わせて編集するため(図・表・写真含む)、ページ数の変更が生じる場合があります。規定ページを超過した際は、原稿の一部削除を求めますが、削除できない場合の超過ページ分は著者負担(11,000 円/1 ページ(消費税 10%を含む))とします(.2.参照)。

IV. 投稿時の提出物

投稿の際には、以下に示す内容を含んだ「投稿票」、「内容紹介」、「本文」の各ファイルを作成し、
45 . に従って学会誌企画・編集委員会宛に提出します。なお、掲載可となった最終原稿の各ファイルには内容の確認ができるファイル名を付けてください。

「投稿票」、「内容紹介」、「本文」のテンプレートファイルは、下記学会ホームページからダウンロードできます。

50 <http://www.jsidre.or.jp/journal/>

1. 投稿票ファイル

「投稿票」には以下の事項を記載します。

和文表題(全角 27 文字以内、副題なし)

英文表題(不必要な冠詞は省略する)

55 和文著者名

英文著者名(姓名順、姓は大文字)

和文著者所属

会員番号(会員のみ)

CPD 個人登録者番号(登録者のみ)

60 和文キーワード(5~7 語)

投稿分野(投稿分野表による)

連絡者名

連絡者所属

連絡者住所・電話・FAX・E-mail アドレス

65 別刷希望の有無・希望部数(最低 30 部)

別刷表紙希望の有無

2. 内容紹介ファイル

「内容紹介」では和文 300 字以内で原稿内容を紹介してください(ただし、全文を1つの段落で記載します)。300 字を超過した際は、文章の一部削除を求め
70 ます。和文キーワード(5~7 語)も記載します。

3. 本文ファイル

表題(和文・英文)・著者名(和文・英文)・図・表・式・写真・引用文献を含む原稿全体は、原稿作成
75 用テンプレート(「本文」)を使用して作成してください。特に、小特集公募および自主投稿原稿は必ず原稿作成用テンプレートファイルを使用してください。

なお、掲載可となった最終原稿では変更履歴や見え消しを残した状態にせず、また文字の色も黒にして通
80 常の文書にしてください。

V. 投稿する際の注意事項

投稿するに当たり、所属機関または関係機関の承認が必要な場合は、必ず承認後に投稿をしてください。

写真の被写体の肖像権や権利関係については、投稿
85 者が許可を取得してから投稿いただく必要があります。掲載後に生じたトラブルまたは損害については、当学会はいかなる責任も負いません。

VI. 投稿方法

「投稿票」、「内容紹介」、「本文(図・表・式・写真・引用文献を含む)」の各ファイルは、電子媒体
90 で提出してください。事務局と著者との連絡は電子

メールで行います。

学会誌企画・編集委員会（技術レポートは各支部）宛に、下記電子メールアドレスへ送信します。

E-mail henshu@jsidre.or.jp

5 VII. 投稿原稿の取扱い

投稿された原稿は、事務局において受け付け、10日以内に原稿の整理番号を電子メールで通知します。学会誌の体裁に則っていない場合は、受付前に修正を求める場合があります。

10 VIII. 著者校正

原稿を学会誌に掲載する際には、誤植防止のため、著者に校正刷りを電子メールで送信し、著者校正を依頼します。

原則として、著者校正の際に原稿の訂正には応じません。ただし、学会誌のルールに則り、軽微な訂正を求める場合があります。大幅改正が必要になった場合は再度審査に入りますので、ご注意ください。

校正刷りは、受領後原則3日以内に校正し、返信してください。

修正した校正刷りは、訂正の質・量に応じて再度校正刷りの確認をいただく場合がありますが、原則として著者校正は1回のみとします。

IX. 別刷

希望者には、有料にて別刷を作成します。別刷申込み部数は最低30部（1部84円）とし、30部以上は、10部単位で受け付けます。また、希望者には表紙（表題と著者名入り）を3,240円で付けることも可能です（価格はいずれも消費税10%を含みます）。

X. おわりに（発行後の正誤訂正）

学会誌発行後、著者から正誤訂正の申し出があった場合には、原稿と照合し、誤植訂正、著者訂正の別を明らかにして、近刊号に正誤表を掲載します。

謝辞 実施した研究プロジェクト名または事業名および関係機関等への謝辞を8ポイントで簡潔に記載してください。

引用文献(例)

- 1) 沢田敏男：「水土の知」の理念の実現，*水土の知* 75(1)，pp.1～2（2007）
- 2) Akan, A.O. : Open Channel Hydraulics, Butterworth-Heinemann, p.364（2006）

- 3) 農業農村工学会：農業農村工学会誌投稿要項（2019），<http://www.jsidre.or.jp/publ/jrnal/inst/toko.pdf>（参照2020年6月25日）
- 4) 中野良紀，清水英良，西村眞一：断層粘土化した新第三紀層凝灰質泥岩の力学的性質，*農土論集* 157，pp.95～104（1992）
- 5) 新沢嘉芽統，小出 進：耕地の区画整理，*岩波書店*，p.ii（1963）
- 6) フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング：新版マーケティング原理（和田充夫，青井倫一 訳），*ダイヤモンド社*（1995）
- 7) 農林水産省農村振興局整備部設計課：土地改良事業計画設計基準 設計「農道」，*農業土木学会*（2005）
- 8) 農林水産省農村振興局整備部設計課：土地改良事業計画設計基準設計「パイプライン」，p.396（2021），<https://www.maff.go.jp/j/nousin/pipeline/pipeline.html>（参照2021年11月20日）
- 9) 阿部幸夫：5.3.2 水路施設における鋼矢板の腐食特性と当て板溶接，*農業用鋼矢板水路の機能診断と保全 非破壊検査と新たな材料開発*（鈴木哲也，浅野 勇 編著），*養賢堂*，pp.176～180（2022）
- 10) Dinar, A. and Quinn, N.W.T. : Developing a decision support system for regional agricultural nonpoint salinity pollution management: Application to the San Joaquin River, California, *Water* 2022 14(15), 2384（2022），doi: 10.3390/w14152384
- 11) 前掲5)，p. 。
- 12) 新潟日報社：中越地震 17 年 感謝と備え，*新潟日報*（地方欄）（2021年10月24日付）
- 13) 溝口 勝：「家族」対応の技術めざせ，現場からの農村学教室，*日本農業新聞*（2020年3月1日付）
- 14) 西日本新聞：一隅を照らす，https://specials.nishinippon.co.jp/tetsu_nakamura/（参照2020年1月1日）
- 15) Tuan, L.A., Hoanh, C.T., Miller, F. and Sinh, B.T. : Flood and salinity management in the Mekong Delta, Vietnam, In: Be, T.T., Sinh, B.T. and Müller, F. (Eds.), *Challenges to sustainable development in the Mekong Delta: Regional and national policy issues and research needs*, The Sustainable Mekong Research Network (Sumernet), pp.15～68（2007）
- 16) 農業農村工学会：都道府県単独農業農村整備事業調査結果，各種報告資料，http://www.jsidre.or.jp/seisaku_journal/（参照2022年9月12日）
- 17) 日本工業規格：JIS K 6257 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム - 熱老化特性の求め方，*附属書 JA*（2017）
- 18) (株)文化工房：石を積む 石垣と日本人，(株)文化工房企画・制作，*田部純正監督*（2001）

〔20###.###.##.受理〕^{注1)}

注1) 受理日は学会事務局で指定します。

名誉会員：農村 守 正会員：農業耕作，工学 華

CPD個人登録者：農業耕作，農村 守